

■ 経尿道的膀胱腫瘍切除

経尿道的膀胱腫瘍切除術

膀胱に腫瘍があります。この腫瘍が良性か悪性か、また腫瘍がどのような種類のものであるかを診断し今後の治療方針を決定する必要があります。そのためには、腫瘍を切除または生検(腫瘍の一部を検査のために採取すること)して病理組織学検査(顕微鏡による細胞の検査です。)が必要です。腫瘍を切除または一部生検するために今回、経尿道的膀胱腫瘍切除術を予定しています。

- 麻酔方法:基本的には腰椎麻酔(下半身麻酔)で行いますが、場合により全身麻酔で行うこともあります。手術前日に麻酔科医が貴方の病室へ伺い、麻酔について説明を行います。
- 手術方法:尿道から膀胱へ内視鏡(カメラ)を入れて、直接膀胱内を観察しながら膀胱腫瘍を電気メスで切除、または腫瘍や膀胱粘膜の一部を生検します。
- 手術御経過:手術翌日から食事・歩行開始となります。術後しばらく(1~4日間)は、尿道から膀胱に管(カテーテル)を留置します。病理検査の結果で今後の治療方針や追加治療(手術療法、化学療法、放射線療法など)の検討をします。

手術に伴う合併症としては

腫瘍を切除中に膀胱壁が薄くなり穴があくことがあります。このときは膀胱まで管(カテーテル)を入れて穴がふさがるのを待ちますが、まれに開腹し修復をする場合もあります。

術後合併症としては

- 血尿:術後1~3週間くらい認められます。時々血尿があったり、赤みがうすい場合には特に問題はありません。まれに血尿の程度が強い場合には輸血や止血術が必要になることもあります。
- 発熱、尿路感染症など:適切な抗生剤を使用し症状改善を目指します。
- 頻尿・排尿時痛など:術後1~2週間前後で改善しますが、腫瘍の場所により遅延します。
- 深部静脈血栓症、肺塞栓症:別紙でご説明します。

一覧 膀胱全摘:男性 膀胱全摘:女性 前立腺全摘 腹腔鏡手術 経尿道的膀胱腫瘍切除
生体腎移植:ドナー 生体腎移植:レシピエント 前立腺小線源療法 開腹腎摘出 開腹後腹膜リンパ節郭清
シャント造設 経尿道的尿管結石 体外衝撃波結石破碎術 小児 検査